

日本製紙グループが取組む鹿防護対策

【日本製紙木材営林事業概要(九州)】

管理面積)	日本製紙社有林	18,300 ha	(森林総合研究所分収林 : 2,150ha含む)	
	個人用地分収林	1,900 ha		
	一般所有林	160 ha		
	合計	20,360 ha		
年間平均事業量)	皆伐	150 ha	(H28=170ha)	
	再造林	100 ha	(H28=130ha … 2,000~3,000本/ha植)	
	間伐	200 ha	(H28=170ha)	
	保育	400 ha	(H28=450ha)	
	林業専用道新設	1,000 m	(H28= 0m: 予算確保ならず)	
	森林作業道新設	7,000 m	(H28=7,500m: TPP・次世代予算)	
	鹿防護外周ネット設置	30,000 m	約90ha分	(H28=35,000m)
	鹿防護単木ネット設置	20,000 本	約10ha分	(H28=30,000本)
年間生長量)	60,000 m ³			
年間伐採量)	50,000 m ³	… 森林経営計画申請単位の問題による伐採量減少		
素材の仕向先)	①製材所、合板工場直納 ②製紙用原料供給 ③バイオマス原料供給 ④輸出: 中国、韓国、台湾が主体			
作業班)	傘下(楨南栄)請負方式 : 直営3~4セット、下請20~27セット(スポット含む) 約150人			



【獣害防止用外周ネット設置の経緯】

平成15年頃迄は、ウサギによる苗上部の嚙切り切断が主

対策：忌避剤の塗布又は散布



植栽地での鹿による食害が目立ち始め、
平成16年度に森総研(当時緑資源公団)で鹿防護ネット設置

構造：一重ネット



平成17年度には自社有林でも鹿防護ネット設置を開始

(ステン入りも施工)

構造：一重ネット → L型ネット → たらしネット



平成21年度からトの字型二重ネット仕様に変更し現在に至る



オーストリア製 鹿よけプロテクターを試行



効果なし



【単木鹿防護ネット設置】

平成24年11月秋植えにハイトシェルターを試行



平成26年度植栽分から幼齢木ネットとの比較試験実施





平成25年8月 右側 :外周鹿防護ネット設置箇所 24年8月下刈実施
左側 :平成24年11月秋植えして下刈未実施 … 鹿が下刈実施